

地域戦略研究所紀要

第7号

コロナ禍における地方都市での大規模国際スポーツ大会開催に対する
市民意識 ～ 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会を事例に

南 博 …… 71

北九州市立大学
地域戦略研究所
2022.3

コロナ禍における地方都市での大規模国際スポーツ大会開催に対する市民意識 ～2021 世界体操・新体操選手権北九州大会を事例に

南 博

- I はじめに
- II 市民意識調査結果および考察
- III まとめ

<要旨>

本研究では 2021 年 10 月に北九州市で開催された「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」閉幕後に東京都、福岡県、北九州市に居住する市民を対象としたアンケート調査を実施し、大会に対する意識等を把握した。コロナ禍の中で有観客開催された大会によって様々な効果があったと多くの市民が肯定的に評価しており、コロナ禍の困難な状況下においても地方都市での国際スポーツ大会開催に意義があることの一端が明らかとなった。

<キーワード>

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)、国際スポーツ大会 (international sports competition)、評価 (evaluation)、アンケート (questionnaire)

I はじめに

1. 研究の背景と目的

2020 年から世界中の社会経済活動に甚大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症によって、大規模国際スポーツ大会の開催中止や延期も相次いだ。そうした中、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が予定より約 1 年遅れの 2021 年夏に開催されたが、ほとんどの会場において無観客での開催となり、またコロナ禍の中での大会開催を巡り様々な世論があったところである。一方で、大規模国際スポーツ大会の開催が社会経済や人々の心理に大きな好影響を与えることも期待される。東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に関しても、NHK が大会後の 2021 年 9～10 月に実施した世論調査では、開催したことについて肯定的な回答が 78%という結果となっている¹⁾。

その東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会が閉幕して間もない 2021 年 10 月、福岡県北九州市において 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会が開催された (表 1)。世界体操競技選手権大会と世界新体操選手権大会が同時期に同一都市で開催されるのは史上初であり、またコロナ禍の中での有観客による地方都市での大規模国際スポーツ大会の開催となり、注目される大会となった。

表 1 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会の実施概要

	世界体操	世界新体操
名称	第 50 回 世界体操競技選手権大会	第 38 回 世界新体操選手権大会
日程	2021 年 10 月 18 日（月）～24 日（日）	2021 年 10 月 27 日（水）～31 日（日）
会場	北九州市立総合体育館 （北九州市八幡東区）	西日本総合展示場新館 （北九州市小倉北区）
参加国	選手：56 ケ国約 300 名	選手：47 ケ国約 160 名
主催等	主催：国際体操連盟（FIG） 主管：2021 世界体操・新体操選手権北九州大会組織委員会 共催：日本体操協会、福岡県、北九州市、日本新体操連盟（世界新体操のみ）	
新型コロナウイルス感染症対策（例）	○基礎的感染対策の徹底 ○選手・大会関係者の行動を制限し、外部との接触を防ぐバブル方式の運用徹底 ○スクリーニング検査の実施 ○ワクチン・検査パッケージを活用し有効席数の 100%での有観客での開催 など	
観客数	延べ約 26,600 人	

（出典）北九州市 Web サイト「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」をもとに作成

こうした大規模国際スポーツ大会の開催効果の分析や検証は、様々な角度から行われることが望ましい。その重要な視点の一つとして、一般的な市民が大会に対しどのような評価したか、という点が挙げられよう。特に 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会は共催として地方自治体である福岡県および北九州市が関わっていること、また新型コロナウイルス感染症に対する市民の多様な意見がある中での有観客開催であったこと等から、一般的な市民等が大会に対しどのような意識を有したか把握することは、大会の開催効果の測定・評価を行うための重要な一つの要素となるとともに、感染症問題が生じている社会状態下での地方都市におけるスポーツ大会や各種イベント開催を今後検討していく際に重要な示唆を得ることができると考えられる。

そこで本研究では、2021 世界体操・新体操選手権北九州大会を事例に、アンケート調査を通じてコロナ禍における大規模国際スポーツ大会開催に対する一般的な市民による客観的な評価等を把握し、開催効果の一端を検証する基礎資料を得るとともに、今後の地方都市における大規模国際スポーツ大会誘致の方向性等に関する示唆を得ることを目的とする。

2. 本研究の位置づけ

新型コロナウイルス感染症が拡大した状況下における大規模国際スポーツ大会に対する市民意識に関する学術的な研究は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会に関する研究などが本研究と並行して 2021 年度において各所で着手されていると考えられる。2021 世界体操・新体操選手権北九州大会についても、本研究のほか、今後様々な研究が行われる可能性はある。

本研究では、後述のとおり大会が閉幕して約 1 か月後という時期に市民意識調査を行っ

て結果を考察することにより、コロナ禍における大規模国際スポーツ大会開催に対する市民意識の実態を明らかにする役割を果たし、今後の大規模国際スポーツ大会に関する各種研究の進展に貢献することに意義および独自性があるものと位置付ける。

なお、北九州市における国際スポーツ大会に関する市民意識調査としては、ラグビーワールドカップ 2019 開催時にウェールズ代表が北九州市でキャンプや各種交流活動を行ったことに関する市民意識等を把握した南（2020）がある。

3. 研究の方法

本研究では、2021 世界体操・新体操選手権北九州大会に関する市民意識について、開催地である北九州市民、また北九州市を除く福岡県民、そして非開催地との意識の違いを比較する観点から東京都民をそれぞれ対象としたアンケート調査を実施し、考察を行う。アンケート調査の方法としてはインターネット調査（民間調査会社が提供する、一定の信頼性が確保された手法を採用）を用い、実施時期は 2021 世界体操・新体操選手権北九州大会が閉幕して約 1 か月後の 2021 年 11 月末～12 月初旬に実施するとともに、一部の設問については南（2021）において事前に実施していた調査結果と比較して大会開催前後の比較を行うこととする。

なお、2021 年 11 月末～12 月初旬に実施したアンケート調査については、北九州市立大学が北九州市大規模国際大会等誘致委員会から受託した受託事業の成果である。当該成果について本研究でとりまとめることに関しては、発注者から許可を得ている。

II 市民意識調査結果および考察

1. 調査実施概要

調査方法は、北九州市、北九州市を除く福岡県、および東京都在住の 18 歳以上の市民を対象としたインターネット調査とする（配布回収は民間調査会社に委託）。調査実施概要を表 2 に示す。本調査における有効サンプル総数は 3,125 である。

表 2 調査実施概要

調査対象	北九州市に居住する 18 歳以上の市民のうち、民間調査会社（本調査においては株式会社インテージ）が管理・利用する調査モニターへ登録している市民
調査方法	インターネット調査（調査協力依頼・回収はアンケート調査会社に委託）
実施期間	2021 年 11 月 30 日（火）～12 月 2 日（木） ※2021 世界体操・新体操選手権北九州大会が閉幕して約 1 か月後
有効回収数	3,125 サンプル（東京都 1,026、福岡県（北九州市以外）1,026、北九州市 1,073）

設問については、本調査の目的に照らして数を絞って実施した。設問一覧を表 3 に示す。回答者の基本属性について、性別を表 4、年齢を表 5、居住地を表 6、職業等を表 7 に示

す。年齢についてインターネット調査の特性のため高齢者の構成比が少ないが、その他は特異な偏りは見られず、本調査結果はインターネット調査モニター登録者という条件下での一般市民の回答傾向を反映していると考えることが妥当とみなす。

表3 調査項目一覧

分類	番号	設問	備考
基本属性	Q1	居住地	
	—	性別	モニター登録情報から取得
	—	年齢	モニター登録情報から取得
	—	職業等	モニター登録情報から取得
2021 世界体操・新体操選手権北九州大会に関する状況、意識①	Q2	2021 世界体操・新体操選手権北九州大会開催の認知度	
	Q3	大会の観戦状況	Q2「知っている」回答者対象
	Q4	大会開催が日本や開催地にもたらした効果	Q2「知っている」回答者対象
	Q5	コロナ禍における有観客開催に対する評価	
	Q6	大会開催全体に対する評価	
関連政策への評価	Q7	県・市が国際スポーツ大会誘致等に取り組むことへの評価	Q1 北九州市、福岡県居住者対象
2021 世界体操・新体操選手権北九州大会に関する状況、意識②	Q8	大会が開催されて「北九州市にとって良かった」と評価できる点	Q1 北九州市、Q2「大会開催を知っている」回答者対象
	Q9	大会開催によるシビックプライドの変化	Q1 北九州市居住者対象

表4 回答者の性別

区分	回答数	構成比
男性	1,599	51.2%
女性	1,526	48.8%
合計	3,125	100.0%

表6 回答者の居住地

選択肢	回答数	構成比
東京都	1,026	32.8%
福岡県(北九州市以外)	1,026	32.8%
北九州市	1,073	34.3%
北九州市門司区	111	3.6%
北九州市小倉北区	228	7.3%
北九州市小倉南区	242	7.7%
北九州市若松区	86	2.8%
北九州市八幡東区	69	2.2%
北九州市八幡西区	275	8.8%
北九州市戸畑区	62	2.0%
上記以外	-	0.0%
合計	3,125	100.0%

表5 回答者の年齢

区分	回答数	構成比
18-29歳	130	4.2%
30-39歳	379	12.1%
40-49歳	784	25.1%
50-59歳	916	29.3%
60-69歳	622	19.9%
70歳以上	294	9.4%
合計	3,125	100.0%

表7 回答者の職業等

区分	回答数	構成比
会社員・会社役員	1,129	36.1%
公務員・団体職員	165	5.3%
自営業・自由業・専門職	245	7.8%
派遣・契約社員	196	6.3%
パート・アルバイト	435	13.9%
学生	27	0.9%
専業主婦・専業主夫	402	12.9%
無職・その他	526	16.8%
合計	3,125	100.0%

2. 結果と考察

(1) 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催の認知度

『あなたは、今年10月に福岡県北九州市で「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されたことをご存知ですか。』と択一式でたずねた結果を図1に示す。回答者計では「世界体操・新体操の両方が開催されたことを知っている」56.6%、「世界体操のみ、開催されたことを知っている」8.2%、「世界新体操のみ、開催されたことを知っている」1.6%となっており、66.4%が大会の開催を認知している。属性別にみると、東京都では66.2%が「知らなかった」と回答する一方、福岡県(北九州市以外)では「知らなかった」は27.1%、北九州市では「知らなかった」が8.6%となっており、開催市町村であった北九州市においては特に認知度が高い状況となっている。性別では差はなく、年齢別にみると若い世代において認知度が低い傾向が見られる。

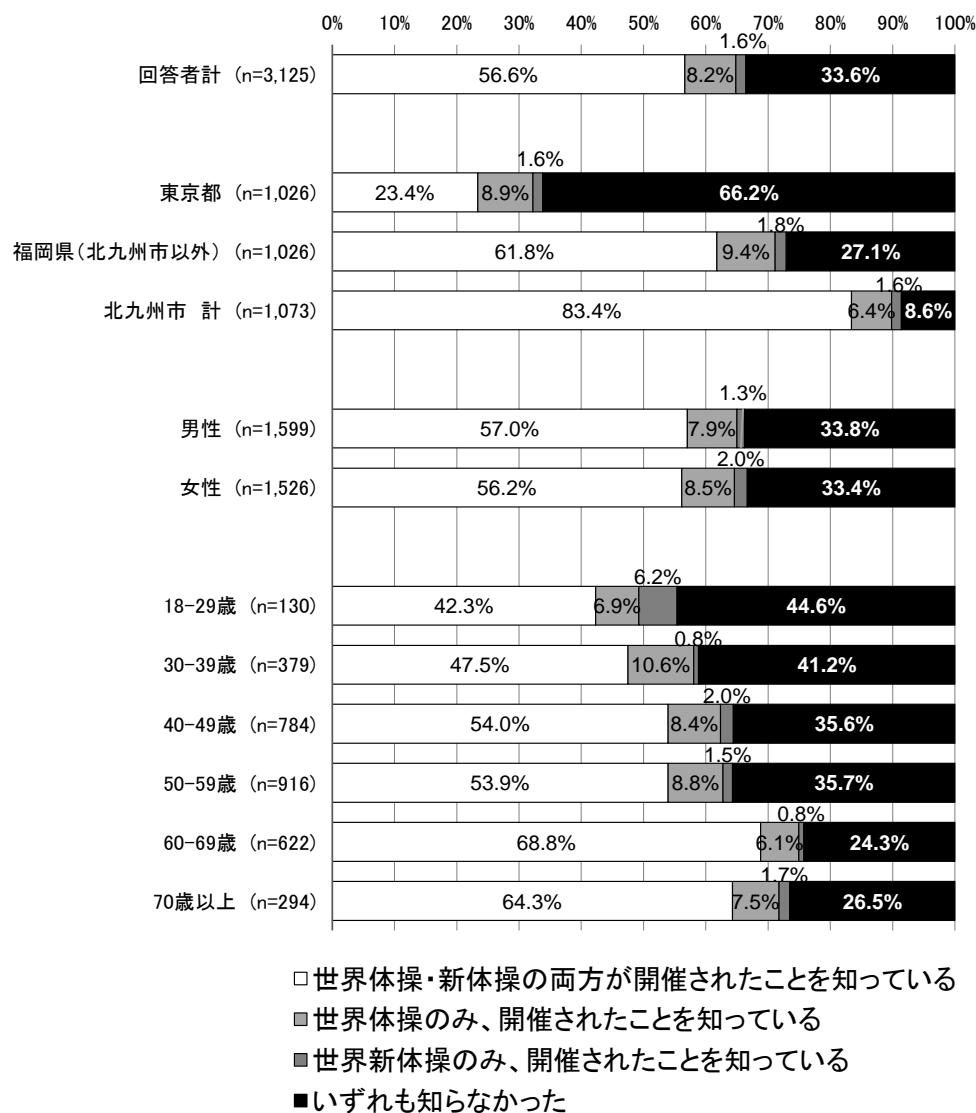


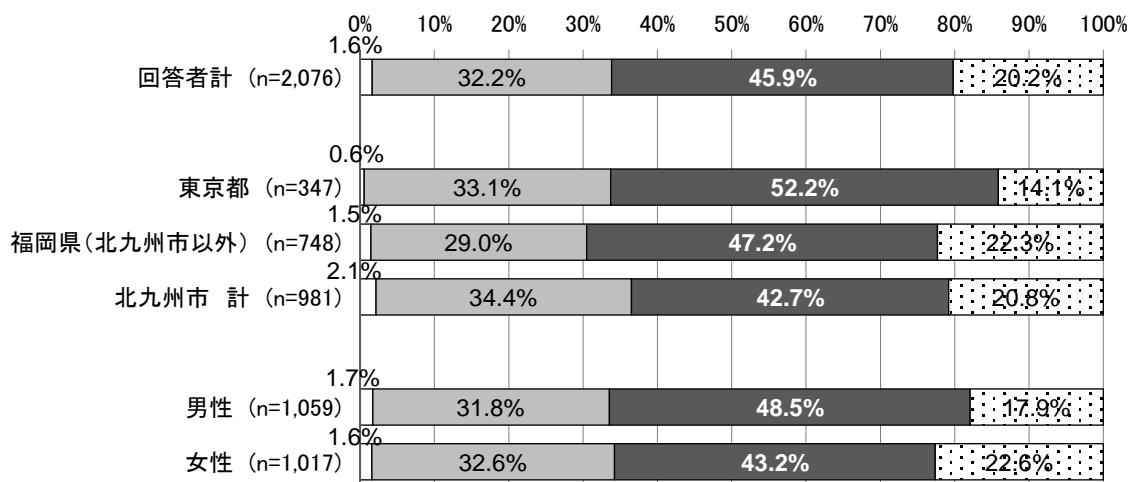
図1 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催の認知度

開催認知度については、北九州市民のみを対象とした大会開催前（2021年3月）の調査結果（南（2021））と比較すると、2021年3月時点では世界体操・新体操選手権の両方あるいは一方の開催を認知していた回答者は32.2%であったが、大会開催後には91.4%に上昇したことになる。これは、マスコミによる報道、SNSでの情報発信、市政だよりなどの紙媒体の発行、市民センター等を通じた各種活動、そして大会期間前から市内で多様な都市装飾が行われたことで、認知度が大幅に高まったものと考えられる。

（2）「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」の観戦状況

（1）において大会開催を知っていると回答した回答者（一方のみの大会を認知している場合を含む。）に対し、「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」の試合を観戦したかどうかたずねた結果を図2に示す。なお、設問文においては、「テレビやネットでの観戦」とは、試合中継（録画含む）のことを指すとしてたずねた。

最も多いのは「会場には行かず、中継も見なかったが、ニュースや新聞、ネットニュース等で情報を見た」であり、次いで「会場には行かなかったが、テレビやネットでは観戦した」となっている。コロナ禍という状況下では、会場での観戦を躊躇した人も存在したことが想定され、認知度の向上において、報道やインターネット情報が重要な役割を果たしたことが、またテレビ等による試合中継も見ただ人が多かったことがうかがわれる。



- 会場で観戦した
- 会場には行かなかったが、テレビやネットでは観戦した
- 会場には行かず、中継も見なかったが、ニュースや新聞、ネットニュース等で情報を見た
- 特に情報は得なかった

図2 「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」の観戦状況
(大会開催を知っていた回答者を対象)

なお、北九州市民のみを対象とした大会開催前（2021年3月）の調査結果では、世界体操・新体操選手権を「体育館や展示場で実際に観戦したい」とする回答が全体の22.6%であった。コロナ禍においても大会は有観客で開催されたものの、有効観客席が1日あたり約2,500席であり、市外からも広く観客が集まったこともあり、会場で観戦しなかったものの観戦の機会を得ることができなかった北九州市民がいたものと考えられる。

（3）「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」開催が日本や開催地にもたらした効果

（1）において大会開催を知っていると回答した回答者（一方のみの大会を認知している場合を含む。）に対し、『あなたは、「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されたことで、どのような効果が日本や開催地（福岡県北九州市）にもたらされたと考えますか。あてはまるものを全てお答えください。』とたずねた結果のうち、該当する回答者全体の結果を図3に示す。

最も多いのは「体操や新体操の競技を身近に観戦できる楽しみ」、次いで「コロナ禍の暗い雰囲気の中で、明るい話題となった」、「日本や福岡県北九州市の知名度の向上、イメージアップ」、「有名な選手などを直に観ることができる楽しみ」が多くなっており、これら4項目は30%以上が選択している。一方で「特に効果は無かった」は14.8%にとどまっており、開催を知っていた回答者の多くは、大会開催によって何らかの社会的効果があったと認識していると言える。大会開催の意義は一般に広く認められていると言えよう。

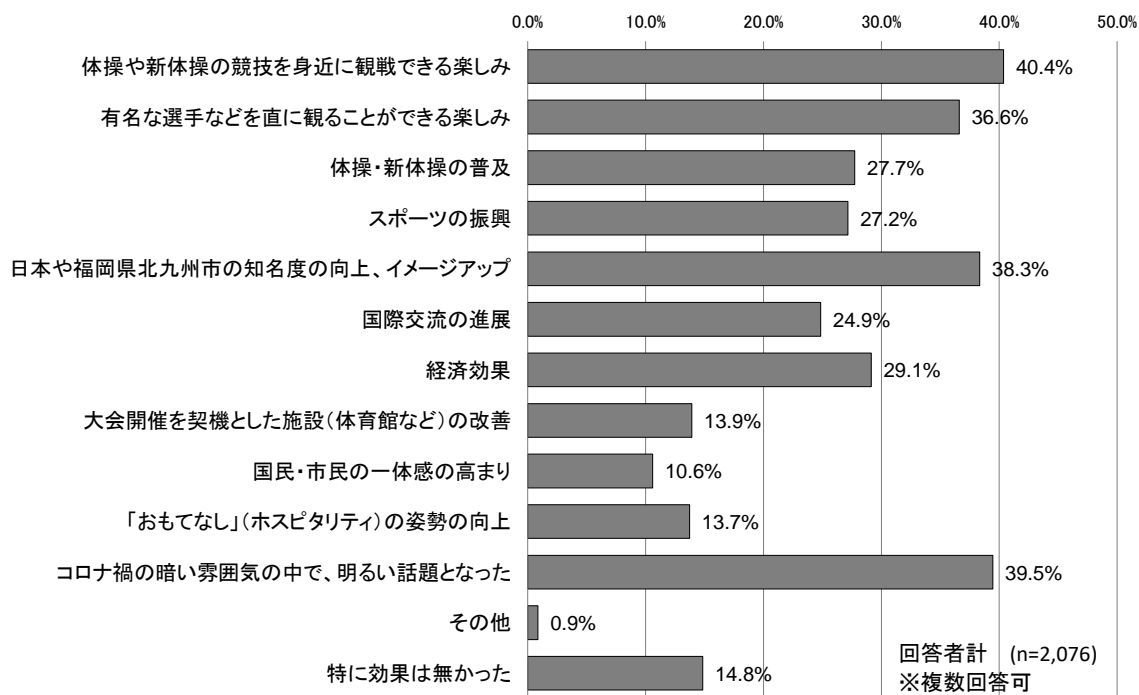


図3 「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」開催が日本や開催地にもたらした効果（回答者全体）

この結果について、回答者の居住地別にみた結果を図4に示す。東京都の居住者に関しては「体操・新体操の普及」が最も多く、福岡県（北九州市以外）の居住者では「体操や新体操の競技を身近に観戦できる楽しみ」が最も多く、開催市町村であった北九州市の居住者では「日本や福岡県北九州市の知名度の向上、イメージアップ」が最も多い回答となっている。

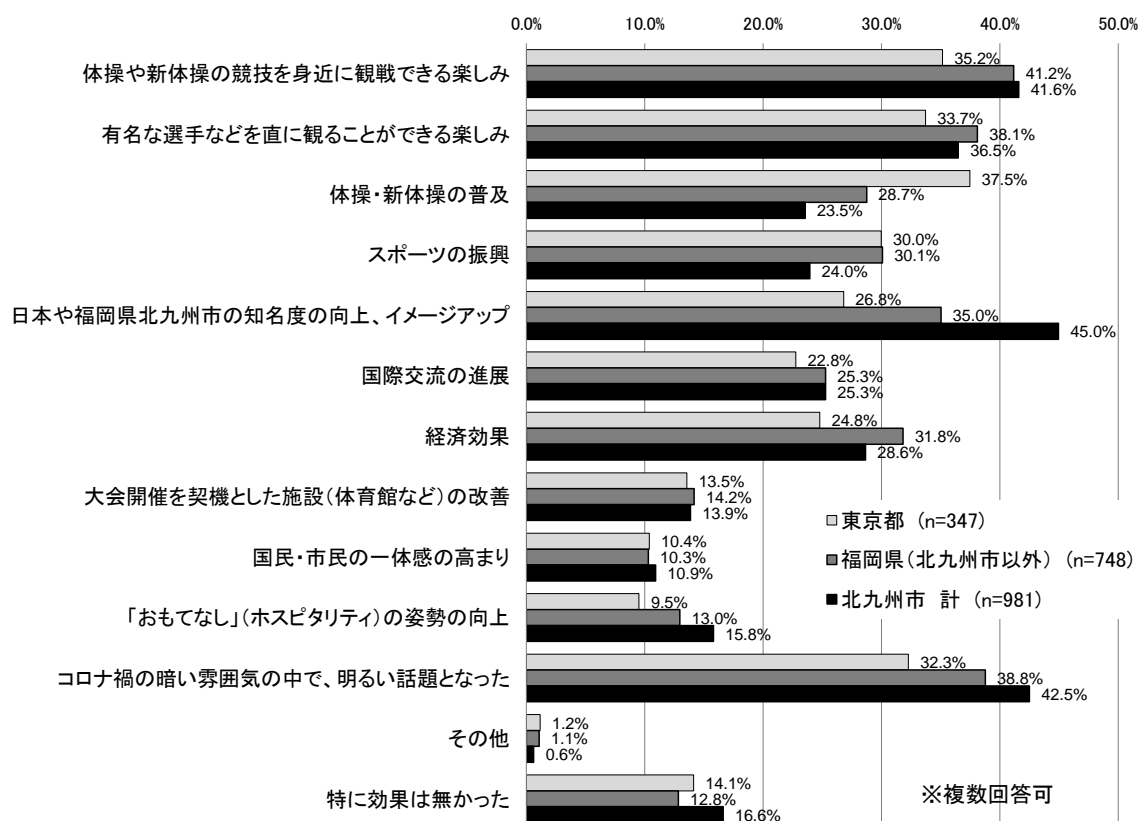


図4 「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」開催が日本や開催地にもたらした効果（居住地別）

(4) コロナ禍における有観客開催に対する評価

回答者全員に対し、『今年10月の「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」においては、新型コロナウイルス感染症対策にきめ細やかな措置を講じたうえで「観客」を入れて開催され、大会終了後も観客からの感染者は確認されませんでした。あなたは、大会が有観客で開催されたことに対し、どのように評価されますか。最もあてはまる気持ちを一つ選んでください。』とたずねた結果を図5に示す。

回答者全体では、「とても良かった」23.4%、「ある程度良かった」40.5%で、合わせて64%が「良かった」と評価している。一方で「あまり良くなかった」3.0%、「全く良くなかった」2.3%で、合わせると「良くなかった」とする評価は5.3%と少数にとどまる。コ

コロナ禍における本大会の有観客開催については、多くの一般的な市民から好意的な評価を得たと言えよう。居住地別にみると、東京都や福岡県と比較し、北九州市において「良かった」とする比率が高くなっている。開催市町村の市民から有観客開催を高評価されており、コロナ対策に万全を期した大会開催が多くの地域住民から受け入れられたと客観的に評価できる。大会関係者等によって様々な努力が行われた成果が表れたと言えよう。

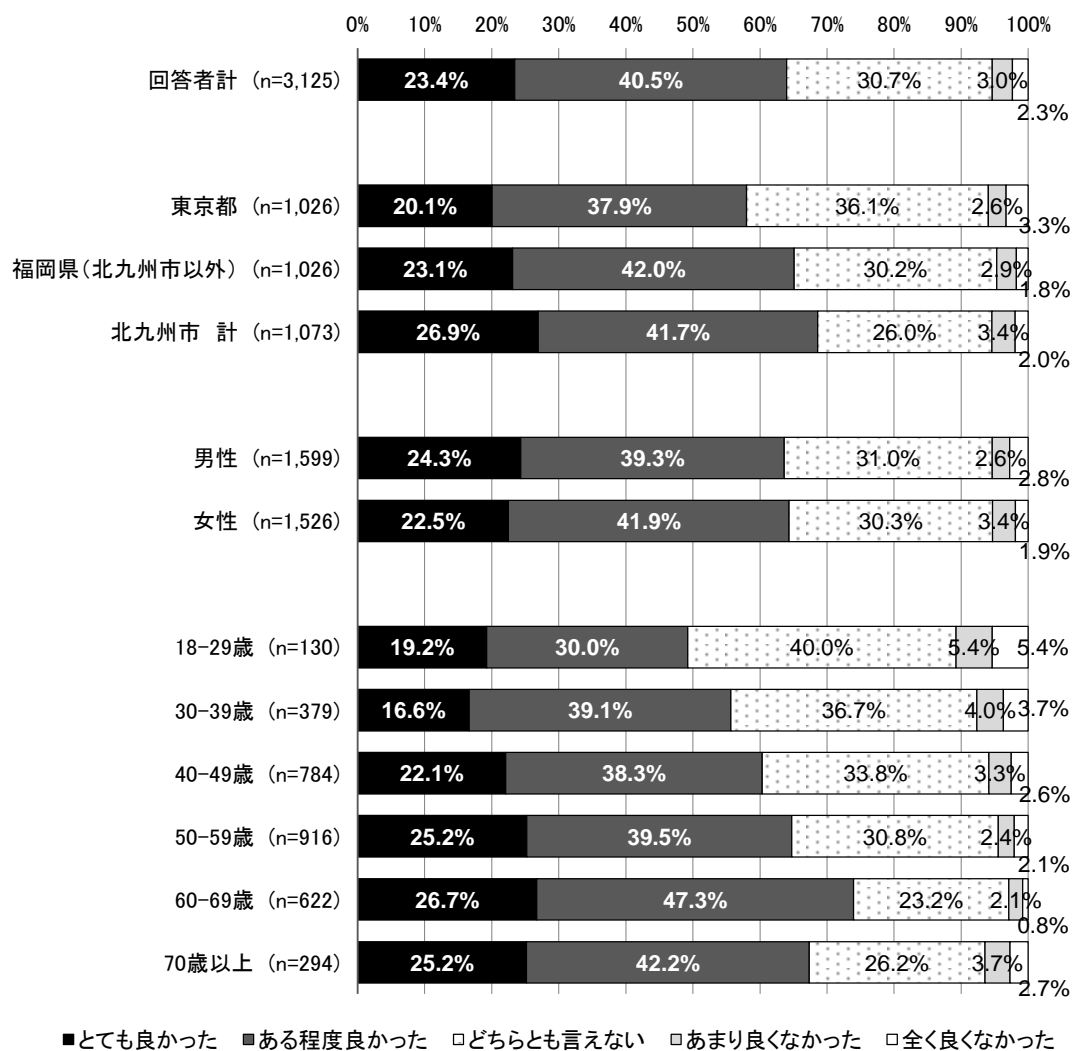


図5 コロナ禍における有観客開催に対する評価

(5) 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催全体に対する評価

回答者全員に対し、『今年10月の「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」の開催全体について、あなたはどのように評価されますか。最もあてはまる気持ちを一つ選んでください。』とたずねた結果を図6に示す。

回答者全体では、「とても良かった」22.1%、「ある程度良かった」40.7%で、合わせて62.8%が「良かった」と評価している。一方で「あまり良くなかった」2.3%、「全く良くなかった」1.8%で、合わせると「良くなかった」とする評価は4.1%にとどまり、ごく少数である。「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」の開催は、多くの市民から客観的に良い評価を得たと言えよう。

居住地別にみると本設問についても開催市町村である北九州市において評価が高くなっている。また、福岡県においても肯定的な回答が60%超となっている。開催地において開催に対する評価が高いことは、大会開催が成功であったと評価する根拠の一つになりうると言えよう。年代別にみると年齢が高いほど肯定的な評価が多くなっている。若い世代においては「どちらとも言えない」とする回答が多く、関心が低かった市民が一定数存在したことがうかがわれる。

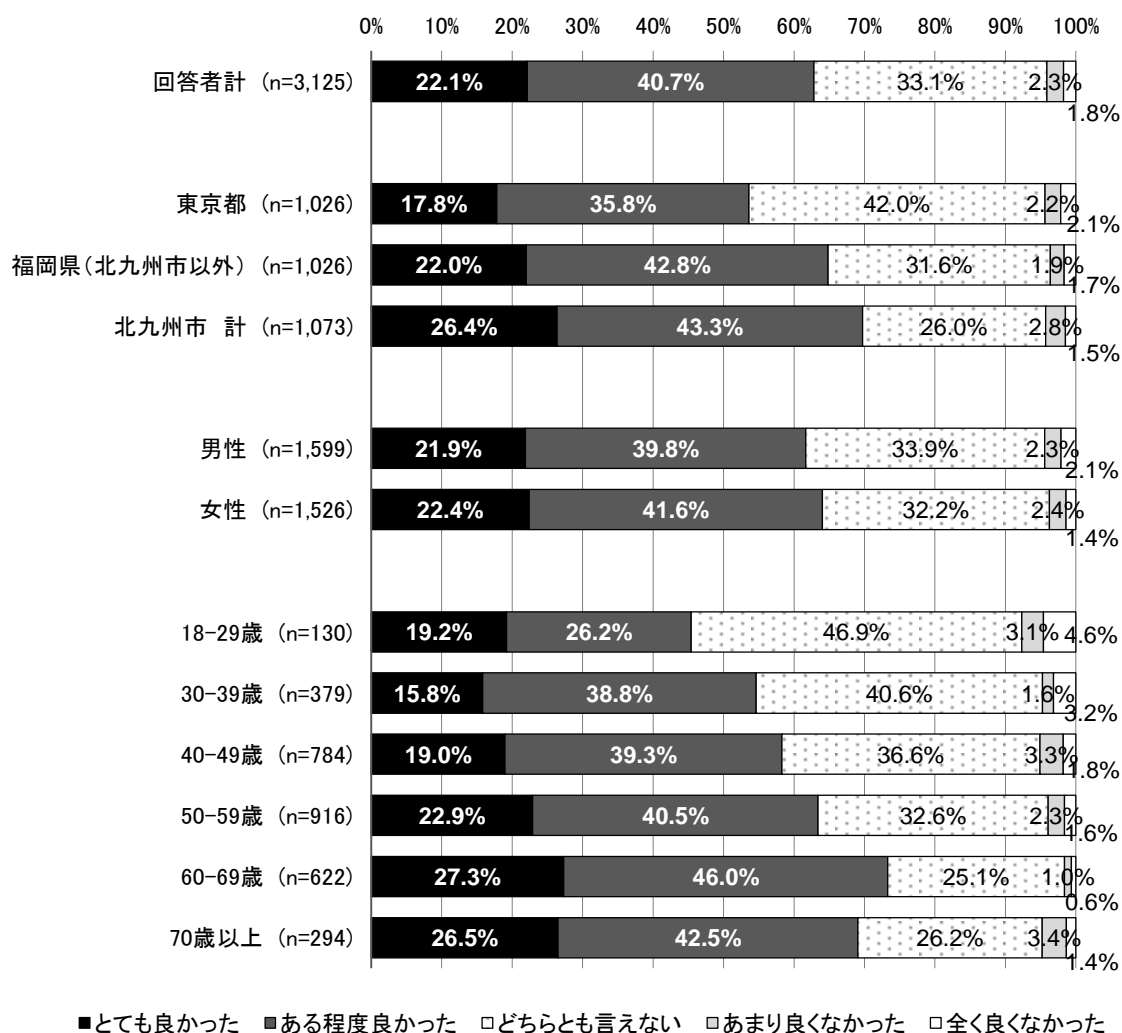


図6 「2021世界体操・新体操選手権北九州大会」開催全体に対する評価

(6) 県・市が国際スポーツ大会誘致等に取り組むことへの評価

本設問のみ、いったん世界体操・新体操選手権から離れ、居住地が福岡県（北九州市以外）および北九州市である回答者に対し、『県、市町村においては、国際スポーツ大会の開催や、外国選手団のキャンプ誘致などに取り組んでいます。あなたはこうした取り組みについてどのようにお考えになりますか。』と択一式でたずねた結果を図7に示す。

福岡県（北九州市以外）、北九州市とも、国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ誘致に肯定的な回答者が70%前後にのぼっており、否定的な市民は10%に満たない。多くの福岡県民・北九州市民が、国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ誘致の政策には意義があると評価していると言えよう。性別では差はなく、年齢別では年配世代ほど肯定的な回答が多くなっている。若い世代においても否定的な意見は少ないものの、「どちらとも言えない」が多い傾向にある。福岡県や北九州市が取り組んでいる政策への住民の理解は得られているものの、若い世代への理解促進を一層進めていくことが必要と考えられる。

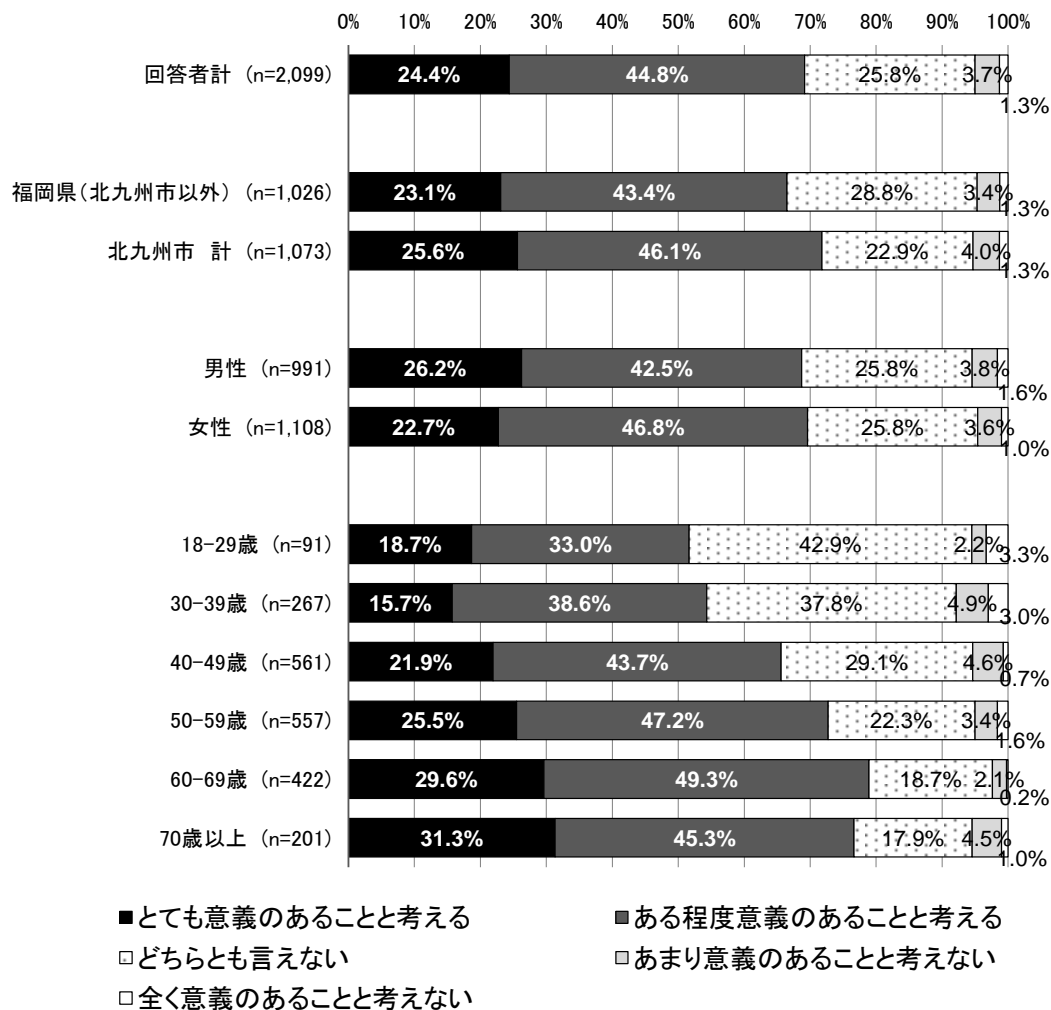


図7 県・市が国際スポーツ大会誘致等に取り組むことへの評価

(7) 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されて「北九州市にとって良かった」と評価できる点

2021 世界体操・新体操選手権北九州大会の開催を知っていた北九州市民に対し、『「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されたことに関し、「北九州市にとって良かった」と評価できる点をお答えください。(複数回答可)』と開催地・北九州市に絞ってたずねた結果を図 8 に示す。最も多い回答は「北九州市の良いイメージが、国内に広まった」、次いで「会場となった総合体育館や西日本総合展示場新館が効果的に利用された」、「体操や新体操への関心が高まった」であり、いずれも 40%前後の回答となっている。その他、コロナ禍の中での開催で様々な制約があったものの、国際交流の進展や経済効果に対する回答、また「街の雰囲気が明るくなった」とする回答もそれぞれ 25～30%程度みられる。一方、良かった点が「特に無し」とする回答者は 18.1%であり比較的少ない。全体として、「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催によって多様な効果が北九州市にもたらされたと市民に広く認識されていると言え、様々な開催効果があったと評価できよう。

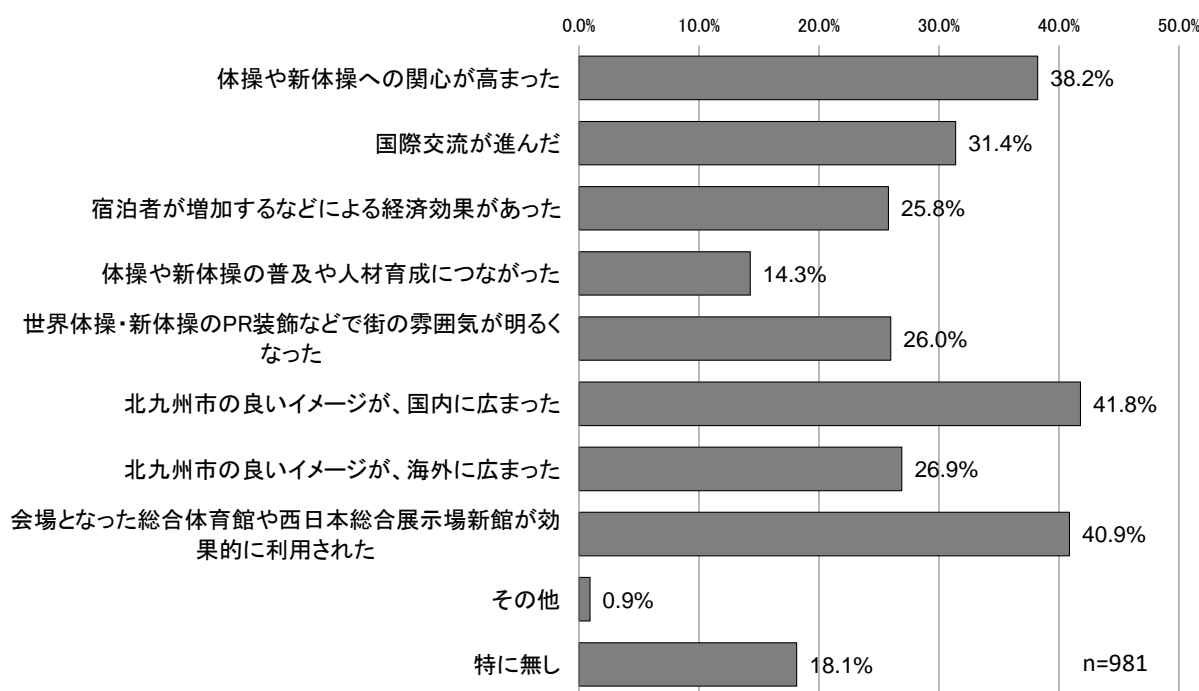


図 8 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されて「北九州市にとって良かった」と評価できる点 (大会開催を知っていた北九州市民対象)

なお、事前に実施した 2021 年 3 月の市民意識調査 (南 (2021)) においては、世界体操・新体操選手権北九州大会への期待として最も多かったのは経済効果 (32.8%)、次いで北九州市の知名度向上・イメージアップ (29.2%)、体操や新体操の競技を身近に観戦できる楽

しみ(27.3%)であった。本研究における事後調査と比較すると、北九州市の知名度向上・イメージアップについては事前より事後の方が大幅に回答率が増加しており、多くの市民が大会の開催を経験して市の知名度向上・イメージアップを強く実感したことがうかがわれる。北九州市内において大会開催が盛り上がったことを示していると言えよう。一方、経済効果については事前より事後の方が約7ポイント減少している。コロナ禍のなかで選手・関係者の行動制限が課され、また観客も試合観戦のついでに観光を行うことへの自制があったため、経済効果への期待は減少した可能性がある。しかしながら開催後調査においても25.8%は経済効果があったと評価しており、また事後に行った推計では大会開催によって約40億2700万円の経済波及効果が北九州市内にあったと推計されている²⁾。大会開催による北九州市内への経済効果は大きく、市民の期待に応えたと評価できよう。

(8) 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催によるシビックプライドの変化

北九州市民に対し、『「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」が開催されたことで、あなた自身のシビックプライド(北九州市への愛着や誇り等)にどのような変化が生じましたか。』とたずねた結果を図9に示す。北九州市計で見ると、「シビックプライドが非常に高まった」7.5%、「ある程度高まった」27.7%であり、1/3の市民がシビックプライドが高まったと考えている。大会開催はシビックプライドの向上に寄与したと言えよう。

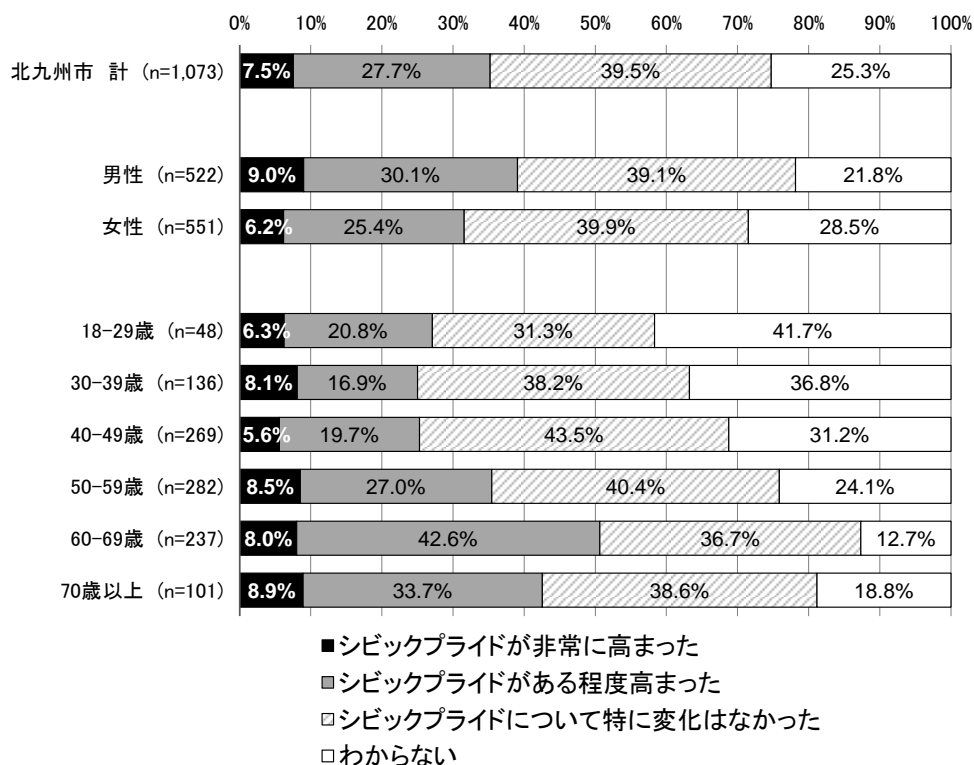


図9 「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催によるシビックプライドの変化 (北九州市民対象)

こうした大規模国際大会スポーツ大会を繰り返し開催することや、開催後に市民や行政、地域の様々な主体が大会のレガシーを活かした様々な取り組みを推進することによって、他のまちづくり関連の取り組みとも相まって総合的にシビックプライドが醸成されていくことが期待される。

Ⅲ まとめ

1. 結果の総括

本研究では、北九州市で開催された「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」の閉幕後約 1 か月の時期に、東京都、福岡県（北九州市以外）、北九州市に居住する市民を対象として同大会に対する意識等を把握するアンケート調査を実施し、その結果の把握と考察を通じて大会開催の効果等を把握するとともに、コロナ禍における地方都市での大規模国際スポーツ大会開催について今後検討していく際の基礎的な情報の一端を得た。結果を総合的に考察すると、特に以下の点が特徴的な点として挙げられる。

まず、「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」開催の認知度は、東京都では 30%強、福岡県（北九州市以外）では 70%強、北九州市では 90%強であった。開催市町村の北九州市において特に認知度が高く、福岡県、北九州市および地域の各種団体等が取り組んできた各種広報・啓発活動には成果があったと評価できよう。

大会が開催されたことを知っている回答者に尋ねたところ、日本や開催地にもたらされた開催効果として「体操や新体操の競技を身近に観戦できる楽しみ」、「コロナ禍の暗い雰囲気の中で、明るい話題となった」、「日本や福岡県北九州市の知名度の向上、イメージアップ」、「有名な選手などを直に観ることができる楽しみ」の回答が特に多かった。「特に効果は無かった」は 14.8%にとどまっており、今回の大会について多様な開催効果があったと人々に認識されていることが明らかとなった。また、「コロナ禍の暗い雰囲気の中で、明るい話題となった」の回答が多かったことについては、コロナ禍のような閉塞的な社会状況における大規模国際スポーツ大会の開催意義の一端を表していると評価できよう。

また、コロナ禍において有観客開催したことに対する評価としては、60%超が「良かった」と評価し、「良くなかった」とする評価は 5%程度にとどまる。コロナ禍における有観客開催については良い評価を得たこととなる。居住地別にみると北九州市において「良かった」とする比率が高くなっており、開催市町村の市民から有観客開催を高評価されている点は、コロナ対策に万全を期した大会運営が行われ、それを市民が広く受け入れたことを明らかにしている。なお、大会開催全体に対する評価についても同様に好意的な傾向となっている。一般的な市民から高評価を受けた大会であったと言える。

大会が開催されたことを知っている北九州市民に対し、大会が開催されたことで「北九州市にとって良かった」と評価できる点をたずねたところ、「北九州市の良いイメージが、国内に広まった」、「会場となった総合体育館や西日本総合展示場新館が効果的に利用された」、「体操や新体操への関心が高まった」が特に多くなっている。また、コロナ禍のなか

での開催で様々な制約があったものの、国際交流や経済効果に対する回答も一定程度みられた。開催によって幅広い効果が開催市町村の北九州市にもたらされたと市民に認識されており、複合的な開催効果があったことを表していると言えよう。今後は、大会開催のレガシーをいかに構築していくかが北九州市や福岡県にとって政策的な課題となる。また、県や市が取り組む国際スポーツ大会、外国選手団キャンプ誘致について肯定的な回答が多かった結果を踏まえると、本大会開催の効果および課題が、次なる大規模国際スポーツ大会の誘致・開催に生かされていくことが望まれる。その際、本調査では比較的関心の低い傾向がみられた若い世代に対し、一層の理解促進を進めていく方策が求められる。

北九州市民を対象に、大会開催が自身のシビックプライド（北九州市への愛着や誇り等）に与えた変化をたずねたところ、「シビックプライドが非常に高まった」7.5%、「ある程度高まった」27.7%であった。シビックプライドは複雑な要素で構成され、簡単に向上するものではないと考えられるが、「高まった」とする回答が30%超であったことは本大会の開催がシビックプライドの向上に寄与したと言えよう。今回の大規模国際スポーツ大会の種目は体操・新体操であったが、様々な競技や様々な大会の開催を積み重ねていくことにより、またレガシーを生かした取り組みが北九州市において展開されていくことにより、シビックプライドが着実に高まっていくことが期待される。

このように、本研究における調査においては、コロナ禍のなかで開催された2021世界体操・新体操選手権北九州大会開催により様々な効果があったと多くの市民が評価し、大会開催は市民に好意的に受け止められていることが明らかとなった。コロナ禍においても、感染症拡大防止対策に万全を期した取り組みが行われ、また都市装飾や市民参加型の様々な普及啓発活動が行われたことが、特に開催地の北九州市民から高評価を得ることに繋がったと考えられる。どのような取り組みが特に効果的であったかの検証は別の機会に研究していくこととするが、北九州市において効果的な取り組みが行われた要因として、ラグビーワールドカップ2019開催時にウェールズ代表が北九州市でキャンプや各種交流活動を行い、高い評価を国内外から受けた経験が活かされたことが挙げられよう。まさに、大規模国際スポーツ大会のレガシー効果と言えよう。2021世界体操・新体操選手権北九州大会についても、今後、様々なレガシー効果を発揮すべく、地域の様々な主体による取り組みが継続的に進められることが期待される。

世界的な感染症の拡大という困難な状況下においても、地方都市において大規模国際スポーツ大会が開催されることに意義があることを、2021世界体操・新体操選手権北九州大会は示す事例となったと評価できよう。

2. 今後の研究課題

今後は、2021世界体操・新体操選手権北九州大会開催後の北九州市におけるレガシー効果の客観的測定や、レガシー効果を発揮するための政策のあり方に関する検討を実施するとともに、感染症の感染拡大という状況下であっても大規模国際スポーツ大会を地方都市

において円滑に開催するための方策や、その開催効果を高めるための政策や市民活動のあり方、運営のあり方の検討に資する研究に取り組むことが課題として挙げられる。

謝辞

本研究は、北九州市立大学が北九州市大規模国際大会等誘致委員会から受託した受託事業の成果をもとにとりまとめたものである。

(本学 地域戦略研究所 副所長・教授)

〔注〕

- 1) NHK Web サイト『NHK 世論調査 東京五輪 ことし7月の開催「よかった」は約5割』による。
- 2) 北九州市長記者会見（令和4年1月19日）による。なお、この経済波及効果の推計は北九州市立大学が実施した。

〔参考文献〕

- NHK Web サイト『NHK 世論調査 東京五輪 ことし7月の開催「よかった」は約5割』
2021年12月11日 6時31分掲載
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20211211/k10013384081000.html>
- 北九州市（2022）「「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」に係るパブリシティ効果等について（報告）」2022年1月19日北九州市長記者会見資料
- 北九州市 Web サイト「2021 世界体操・新体操選手権北九州大会」
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/shimin/336_00001.html
- 南博（2020）「ラグビーワールドカップ 2019 日本大会がキャンプ地にもたらした効果—北九州市を事例に—」、北九州市立大学地域創生学群『地域創生学研究』No.3、pp.1-36
- 南博（2021）「コロナ禍における北九州市民の“観るスポーツ”への意識～ギラヴァンツ北九州、国際スポーツ大会を中心に」、『北九州市立大学地域戦略研究所年報』No.1、pp.89-115

STUDIES
OF
INSTITUTE FOR
REGIONAL STRATEGY
CONTENTS

Civic Consciousness of Hosting Large-scale International Sports Competitions
in Local Cities: The Case of 2021 Artistic and Rhythmic Gymnastics
World Championships in Kitakyushu Hiroshi MINAMI …… 71

No. 7
March 2022
INSTITUTE FOR REGIONAL STRATEGY
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU
KITAKYUSHU CITY, JAPAN